

「百聞は一見に如かず」

北星学園大学短期大学部英文学科2年 梅川 歩夢

2016年11月16日から23日の

1週間、中国のハルビン、上海、

北京に行ってきた。私は高校で1年間、大学で約2年間、中国語を学んでいる。大学で中国人留学生と親しくなり、中国語学習に力を入れていく中で、言語だけでなく

中国の文化や食、人々、国の様子はどのような感じなのだろうか、と興味を抱いていた。そんな時、

この派遣事業のポスターを見たのがこの事業に参加したきっかけである。



ハルビン・東北林業大学でのグループディスカッション

この事業で最も印象的だった地域はハルビンだ。ハルビンは北海道より北に位置しているため、冬はとても寒い。私たちが訪れた時は氷点下15度であった。

ここでの主な活動は黒竜江省外事弁公室への表敬訪問、北海道との友好提携30周年記念セミナー・記念レセプションへの参加、東北林業大学、黒竜江外国語学院への訪問であった。

表敬訪問は初めての体験でとても緊張したが、外事弁公室の方々は温かく私たち派遣団を迎えてくれた。黒竜江省と北海道は1986年に友好提携を結び、現在まで盛んに交流を行ってきた。2地域の友好関係について話を聞き、とても勉強になる訪問であった。また、記念セミナーに登壇した高橋はるみ知事や、関係者の方々の講演を通じて黒竜江省と北海道のつ



周荘の歴史ある古い町並みで

ながりを深く知ることができた。

大学訪問は、私がとても楽しみにしていたことの一つである。どちらの大学も日本語を専攻している学生たちとの交流が準備されていた。東北林業大学では小グループに分かれ、北海道について説明し、趣味、将来の夢などのフリートークングを行った。学生たちは日本のアニメや歌、ドラマが好きで、それから日本語を学習している学生も多く、レベルが高く日本語に対する熱意が伝わってきた。学生たちとの別れはとても惜しむべきものだったが新たな出会いが増えてとてもうれしかった。

黒竜江外国語学院で私は北海道についてのプレゼンテーションを行った。学生たちは頷いたり反応してくれたりして理解してくれていたとの感触を得た。また、北海道盆踊りをレクチャーし、全員で輪になって踊った。短い時間だったが小グループに分かれて交流し、学食で昼食を一緒に食べた。彼らも日本語学習に対して努力しており、私も中国語学習にもっと一生懸命取り組まなければならないと思った。

ハルビンから飛行機で約3時間、上海に到着するとハルビンとは打って変わって蒸し暑く、上着は必要なかった。

上海では観光がメイン。市内中心部の昔の雰囲気が残っている豫園へ。観光客が多く混雑していた。豫園では烏龍茶、ジャスミン茶、紅茶など中国のお茶を嗜んだ。本場の味はともおいしく、今まで味わったことのないもので感動した。

その後、ナイトクルーズで上海

の有名な高層ビル群の夜景を目前で見る事ができた。上海はビジネスのイメージが強かったが、まさにその通りで、ビルのライトアップや街の雰囲気から、今後世界的中心の一つとして発展していくのだろうと感じた。

上海料理はハルビン料理と比べて薄味で食べやすかった。翌日、周荘と蘇州という郊外の古い町並みを視察し、歴史を感じながらゆっくりと楽しんだ。そこでは上海の発展しているイメージとは逆に、穏やかな趣を味わえて良かった。夕方高速鉄道で北京へ向かった。



北京市内の天安門広場で

北京では日本の事務所への訪問、北京第二外国語大学への訪問、万里の長城、天安門の観光であった。

自治体国際化協会北京事務所、ジェトロ北京事務所、札幌市北京デスクの三箇所を訪問し、それぞれの事務所では中国の経済状況、今後の期待についての話を聞いた。

中国はものすごいスピードで発展していて、現地に行くところを感じる事ができた。また、日本人は中国・中国人に対してあまり良い印象を持っていないかもしれない。しかし、今回の訪問を通じて、それはほんの一部だけであり、中国には良い面もあることを理解した。日本もそうではないだろうか。良い面、悪い面の両方あるからこそ発展できているというようなことを感じた。

北京第二外国語大学訪問では、学生が「おふくろの味」部活動・課外活動「中国人が行きたい日本の場所」についてのプレゼンター

ションをしてくれた。どの発表も流ちょうな日本語で、スライドも全て日本語でとてもレベルが高く、驚いた。昼食も共にいただき、料理の説明をしてくれたり、趣味の話などで盛り上がった。

万里の長城、天安門への視察についてだが、世界遺産である万里の長城への訪問はとても興奮した。訪れた日はちょうど30年に一度の寒波が来ていたため凍えるような寒さであったが、万里の長城に行くことができ私は大満足だ。また、想像以上に広がった天安門広場にはとても驚き、中国の大きさを実感した。

◆ 今回の事業で感じたこと 今後の目標

今回、ハイエック専務理事でもある越前雅裕団長をはじめ社会人や大学生、添乗員さんなど、さまざまな背景を持つメンバーで海外へ行くという経験は人生で初めてで、緊張や不安があったが、皆さんとても親切なうえ個性的で、とても良いメンバーであったと思う。

スケジュールはハードだったが、私にとつて得るものしかない一週間だった。今回、中国の良い面を大いに知る機会となった。日本で報道されている中国と、本当の中国の姿の違いをハッキリ知ることができたことは収穫だったと思う。まさに「百聞は一見に如かず」である。

また、学生との交流のおかげで私の中国語学習へのモチベーションも上がり、新たなつながりも増えた。今回この事業に参加でき、団員の皆さんと中国に行けたことには感謝している。また、現地では中国のさまざまな歴史や現状を教えてくださいました。中国のさまざまな歴史や現状を教えてくださいました。中国のさまざまな歴史や現状を教えてくださいました。

今後の目標として、家族や友人などに中国と日本の関わりや本当の姿を少しでも理解してもらえように、地道な作業ではあるが伝えていきたい。そして中国語学習に精進し、将来は日中間で働きたいと思う。